

地震により我が家のワイングラスが割れてしまった。そこで、先日、ようやく新しいものを買いにいった。家人と、あれこれと見ていたところ、「高澤先生」と声をかけられた。振り向くと、かわいいお子さんを抱いた女性が立っていた。すぐにTさんだとわかった。

Tさんは、中学3年生になるタイミングで、私が当時勤めていた中学校に転入してきた。そして、ソフトテニス部に入った。同じタイミングで、別な中学校からもう一人の生徒が転入してきた。Oさんである。こちらソフトテニス部に入った。

2人とも、以前からよく知っていた。それは、ソフトテニスの選手としてである。二人とも名前の売れた選手だった。その2人が、私の学校にきた。この2人がペアを組めば強い。それは明らかだった。2人の出現は、私にとっても、女子ソフトテニス部にとっても青天の霹靂であった。

これは大変なことになった。そして、考えた。時間がない。6月には、支部大会と県北大会、そして、7月には県大会である。さらには、8月になると東北大会と全国大会がある。そこまで視野に入れた。それだけの選手だった。

7月の県大会に照準を定めた。技術はある。あのときの私が考えたことは、心の指導である。最後に勝負を決めるのは、心である。その一環として、他の女子ソフトテニス部員、特に3年生への配慮に重点を置いた。当たり前である。いきなり、自分たちとはレベルの違う選手が2人もきたのである。戸惑うのも無理はない。

しかしである。これは考えようによっては、チャンスでもある。団体戦は、3ペアが出場する。TさんとOさんのペアが勝ったとしても、他の2ペアが勝たなければ負けである。そこで、考えた。個人戦はT Oのペアだが、団体戦では、TさんとOさんのペアをばらして、別の選手と組むのである。そうすることで、2ペアが勝つことを目論むわけである。

TさんとOさんと組む選手には、かなりの重圧がかかる。また、TさんとOさんには、ぐっとこらえる我慢強さが求められる。ペアのコンビネーションなど、技術面、戦術面の指導は必要だが、一番求められるのは、心の指導である。

6月の支部大会を迎えた。個人戦は、T Oペアで当たり前のように優勝した。団体戦はというと、シード権をもたない我がチームは、運悪く、最も強い学校の下に入ってしまった。善戦及ばず、敗退した。

次は、県北大会である。個人戦は、T Oペアで、また優勝した。団体戦はというと、またシードチームの下に入ってしまった。だが、私には勝算があった。ここさえ勝てば、一気に決勝までいける。すなわち、県大会にT Oペア以外の選手たちも連れていくことができる。それが、私に課せられた使命だと考えた。

県北大会団体戦が始まった。シード校との2回戦、まんまと勝った。相手校はショックである。こちらは一気に勢いがつく。ところがである。勝負というのはわからない。先のことを考えると、よくないことが起きるものである。次の試合で、肝心かなめのOさんのペアが負けてしまった。

(次号に続く)